

文化高知

2005年1月 NO.123



せい
「誠ちゃんの話」 筒井孝枝

〈もくじ〉

「文化」とは？	宮地貴嗣	2
アンデルセン生誕 200 周年とデンマーク演劇	栗原雄二	3
中学生、ガムランを通じて異文化を知る	岡林宏二	4～5
子どものそだち	弘田恵子	6～7
高知市文化祭への参加映画を選定して	山本嘉博	8～9
ペール・ラシェーズにナポレオンを追え	千頭将宏	10～11
子どもの目が輝く瞬間	河村章代	12
かるぼーと10月～11月の事業のご報告		13
風俗歳時記・風伯		14～15

(財) 高知市文化振興事業団

「文化」とは？

宮地貴嗣

「文化高知」に寄稿させていただく機会をいただき、ありがとうございます。この冊子の読者の皆さんには今さら、のことかもしれませんが、「文化」とは何か？を考えたと思います。というのは、私は平日頃から日本社会の不可思議を感じており、その根底にあるものは、文化の中でも「生活文化」の希薄さではないかと思っっているからです。

三省堂国語辞典第四版によると、文化とは

① ひらけない状態から、技術が進み生活が便利になり、また程度が高くなる状態。② 進歩・向上をはかる、人間のいとなみ（）によって作り出されたもの、例、学問・芸術・道徳など。「文化国家・精神文化・言語は文化である」③ その社会で受けつがれる、生活・行動のあり方。「サル」の文化

となっております。

ところが、現状では、「文化」という言葉は「芸術文化」に偏って使われている傾向が強く、元来「文化」の一部である「道徳」や「学問」などが、なおざりにされているのではないのでしょうか。

例をあげると、「企業の文化活動」とか「文化度の高い企業」といった表現は、演劇の後援を積極的にに行ったり、著名な作家の絵画を多く所有し、美術館で広く市民に鑑賞の機会を与えていたりするような企業を指すことが多いのではないのでしょうか。この時の「文化」は「芸術文化」を指しています。

一方、「文化」＝「生活文化」と考えると、「文化度の高い企業」とは、あいさつがきちんとできる企業、清掃がよくできる企業などと考えられますが、あまりこのような使い方は

はされません。

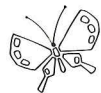
本来、「文化」の根底にあるものは、国語辞典の③にもあるとおり、生活をよくしようとして生まれた行動や習慣・道徳だと思えますし、それをわかりやすく世の中に広めやすくした宗教なども含まれると思えます。私はこれをわかりやすく「生活文化」と呼んでいます。そして、「芸術文化」とは主に「生活文化」が昇華した形で表されたものではないかと考えています（芸術家の皆様、間違っていましたら申し訳ございません）。

「文化」には、もちろん現在の表現の中心となっているテレビや雑誌も含まれると思いますが、残念ながら「生活文化」をよくしようというものが形になったとは思えないものが多く見受けられます。商業主義が中心となり、視聴率や発行部数の多

いものにお金を出す企業が多いからこのような根底のない文化になってしまうのでしょうか。

日本以外の国では、この道徳や習慣といった「生活文化」をとて大切にしています。日本は戦前には儒教をもとにした素晴らしい生活文化がありました。戦後、「個の自由」「個の尊重」のもとに残念ながら大切な価値観をなくしてしまいました。文化は私たち一人ひとりが作り上げるものです。私は残念ながら「芸術文化」に携わることが少ないのですが、道徳の形成など、「生活文化」をよくすることは日々の生活で行うことができます。この「文化高知」をお読みの方も「生活文化」の向上に心を傾けてみませんか。

みやじたかし／宮地電機株式会社
社代表取締役専務



アンデルセン生誕二百周年とデンマーク演劇

栗原雄二

今年、童話作家ハンス・クリスチヤン・アンデルセンが生誕二百周年を迎えます。これを記念してデンマーク国内はもちろん世界中で文化行事が行われます。それを盛り上げるために各国でアンデルセン親善大使が任命されています。日本でも昨年十一月に八名の人たちが任命されています。任命式は、デンマーク女王ご臨席のもと東京で行われ、日本におけるアンデルセン企画も発表されました。三月にかかるほどで行われるアンダーグラウンド音楽劇団のオペラ形劇「火打ち箱」公演も公式行事として紹介されました。この公演が公式行事になったのは一つの手紙がきっかけでした。

昨年三月にデンマークから招待した劇団「グループ38」のメンバーの一人から、「栗原さんの、アンデルセンの誕生日を祝う計画を知らせる

手紙を駐日デンマーク大使館に出した」とメールが届いたのです。とても感激しました。私もすぐに大使館に手紙を書きました。すると大使館から返事が来たのです。「「火打ち箱」を任命式で発表して良いですか？」という内容でした。そんなわけで「火打ち箱」は日本におけるアンデルセン企画の公式行事になりました。

「火打ち箱」は、アンデルセンが最初に出した童話集に収められています。魔法の箱、火打ち箱を手に入れ、お城のお姫様と幸せになるというお話です。アンダーグラウンド音楽劇団はこれをオペラにしました。プッチーニやモーツァルトなどのオペラの名曲を使って子どものためのオペラを作ったのです。しかも、オペラ形劇という、世界でも珍しい手法で演じま

す。オペラ歌手が人形を操りながらナマで歌うのです。「火打ち箱」を高知の子どもたちに楽しんでもらい、アンデルセンの誕生日を一緒に祝いしたいと願っています。

デンマークの人口は五百四十万人ですが、子どものための劇団が七十五あります。高知県の人口で考えると十一の劇団があることになりました。演劇が本場に身近に存在しているのです。保育園ごと演劇を見る企画委員会があり、自治体と連携して無料で鑑賞しています。

私がデンマークの子どものための演劇を初めて見たのは一九九四年です。沖縄県で行われた「国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ」の運営に参加したときです。ほかに、アメリカ、ドイツ、中国など十カ国の演劇を見たのですが、私はデンマーク演劇の質の高さに強く惹かれ、その年のデンマーク演劇祭に行きました。

行ってびっくり、カルチャーショックとはまさにこれでした。一週間の期間中、百十もの作品が四百回公演されるのです。しかも、毎年行われている世界最大の演劇祭でした。演劇祭の費用は全額公費助成、政府と誘致市町村がお金を出しています。もちろんすべて無料です。どうして

こんな演劇祭が行えるのだろうか、その理由が知りたくて毎年演劇祭に行きました。行っているうちに分かってきました。デンマークの演劇人は、いつも協力し合って、作品の質を高めるための相互批評や共同制作など全体の質の向上を図る努力をしています。みんなで良くなるうとしてきたのです。作品の質が良くなるとは観客に支持されないし、行政の支援も受けられないと考えているからです。デンマーク演劇人のこの姿勢が、質の高い作品を創り出す源泉だったのです。

デンマークは、経済、教育、福祉文化、環境すべてに質が高く、GD P、国際競争力ともに日本より上位です。少子化を乗り越え、いまはベビーブームです。とくに、教育を重視している国だということも分かりました。

私は、子どものための舞台芸術の企画と普及の仕事をしてきました。八年前、高知県の子ども文化施設にかかわるようになり、ついには高知に移り住みました。いまでは、高知とデンマークが私の大切な場所になりました。これからも、デンマークとの交流を続け、学んだことを伝えていきたいと思っています。
(くりはらゆうじ)

中学生、ガムランを通して 異文化を知る

岡林 宏二



日本から南へ五千キロ、赤道直下のインドネシアは、大小一万七千五百もの島々からなる国である。これは、それらの島々を毎日一つずつ巡っても、全ての島を終えるのに実に五十年かかるというから、その多さが実感していただけるのではないだろうか。

とはいっても、人口の大部分はジャワ・スマトラ・カリマンタン・スラウェシの四島にあり、中でもジャワ島は首都ジャカルタを擁し、政治経済、そして文化の中心となっている。

インドネシアで過ごした三年間

私が日本人学校教員として平成十一年から十三年度の三年間を過ごしたのもこのジャカルタであり、ジャカルタ日本人学校は、日本企業の駐在員・政府関係職員・現地起業家等の子女約一千名が、幼・小・中学校に学ぶ大規模校である。

インドネシアに設置する外国人学校は、インドネシアに関する授業を教育課程に盛り込むことが、インドネシア政府によって義務づけられているため、ジャカルタ日本人学校でも、インドネシア語会話はもとより、インドネシア文化に関する体験学習

が授業の一環として行われている。とりわけ音楽に関しては、アンクルン（竹製の打楽器の一種）のセットが備えられており、私が担当していた音楽の授業でも何度か活用し、和音で合奏したときの重厚ともいえる豊かな響きは、今でも胸の中に残っている。

ガムランのセットも、日本人会から学校に贈られたものがあつたが、それは「バリ式」のものであり、後述する、スラバヤ市から高知市に贈られたものとはスタイルが異なっていた。

昨年、インドネシアで初めての国民の直接投票による大統領選挙が行われ、ユドヨノ氏が第六代大統領に選ばれたことは記憶に新しいが、私が赴任していたころは、スハルトからハビビに交代したばかりで、その後も、アブドゥルラフマン・メガワティと大統領が替わるなど、政局が安定しなかった時期であつたために、国内ではたびたびデモが発生した。デモの規模によっては、学校を臨時休校にしたり、繰り上げ下校にしたという措置を取らざるを得ないのだが、行事や計画が予定通り進まずに、子どもたちにも随分不便な思いをさせて辛抱してもらつたことを思い出す。新大統領のもとで、インド

ネシアがこれから民主的に発展していくことを願わずにはいられない。

姉妹都市スラバヤから 贈られたガムラン

さて、高知市は平成九年四月にジャワ島の東部にあるインドネシア第二の都市、スラバヤ市と姉妹都市の提携を結んだのだが、以来、両市の交流が盛んに行われ、スラバヤよこいフェスティバルの開催や、二年に一度スラバヤ市の中学生を高知市に招いて、ホームステイを通じた交流が行われているのをご存じだろうか。今回のガムランも、両市の友好の記念品として寄贈されたものである。総重量三トンを超える楽器の移動のために、相当な苦労があつたのではないかと推察するが、それを英断してくださったスラバヤ市、そして受け入れのための諸事務を遂行してくださつた高知市には深く感謝の意を表したい。

昨年二月、「スラバヤ市からガムラン寄贈」の新聞記事を見た私は、四月からの三年生の生徒選択の授業で活用することを思い立ち、早速高知市の担当課に打診、準備を進めてきた。とりわけ最初に行った、「か

という作業は、予想をはるかに超える難事業であり、ちょうど暑さが増していくころ、子どもたちはもちろん、校長・教頭・用務員総出で汗だくの作業であつたことを思い出す。

さて、ガムランは、観光地で有名なバリ島に主流のある「バリ式」とジャワ島の古都ジョグジャカルタに主流のある「ジャワ式」の、大きく二つのスタイルがあるのだが、高知市に贈られたそれは「ジャワ式」のものであつたので、子どもたちへの指導に正確を期すべく、何度か県外の専門家に助言を仰ぎに行ったことである。

今回の演奏で取り上げた曲は、クワン・サロン・パキン・スレントム・ボナン・クノン・クトゥ・クンブル・ゴンの九種の楽器を十二名で演奏するという、基本的な曲であつたが、まず各々の楽器の奏法を学習してメンバー全員が各楽器の役割を理解することから始めた。特に、右手を持ったバチで音板を叩くと同時に左手では前の音板を押さえて響きを止めるという、ガムラン独特の奏法に慣れるのには時間がかかつた。

その後、担当楽器を決め、合奏を練習するのだが、西洋の音楽とは異なつて数字で書かれている楽譜を、子どもたちに馴染みのある五線譜に

書き換えるのにも、私なりの工夫をしたことである。

また、演奏を校内文化祭において発表するときの衣装にもインドネシア文化を取り入れてみようと考え、八月に私はインドネシアに赴いて衣装用の布地を購入して帰り、九月には保護者の協力を得て縫製作業にも取りかかつた。

発表用の民族衣装ができあがるころには、ガムランの合奏の方もまずまずの演奏になり、何度も打ち合わせをしながら練習を積み重ねてきた。

十月三十一日の発表会のために、大阪のインドネシア総領事館から本物の民族衣装一対が貸与され、二名の代表生徒が身にまどつての本格的なステージとなつた。岡崎高知市長、高知市在住のインドネシアの方々ほか多くの来賓・保護者の前で子どもたちは緊張の面持ちだったが、練習してきた内容が十分に発表できたのではないだろうか。

四月当初には各楽器の名称も知らなかつた子どもたちであり、効果的な楽器配置さえ自分たちでできるようになつてい



て、自国のものとは異なる文化に対しての理解を深めるとともに、さらに視野を広げようとする姿勢も育つてきたように感じる。

この二十一世紀の社会を担う若者が、新しい文化の風を感じ、いろいろな文化に共感する気持ちをふくらませ、平和な世界で大きく活躍することを期待している。

（おかばやしこうじ／高知市立朝倉中学校教諭）

子どものそだち

弘田 恵子



当園の近くには公園がいくつかあります。昔の公園は、子どもたちの元気な姿で活気にあふれていました。今は、遊ぶのに満点の心地よい日でも、親子の姿はほとんど見受けられません。乳幼児ばかりでなく、小学生の姿も見られなくなりました。少子化が進み子どもの数が激減したことや、働く女性が多くなり、大半の子どもが集団生活をしていることが原因かもしれません。「公園デビュー」の名のごとく、人の輪に入りにくいので家の中にもついていた方が気持ち的に楽、あるいは外に出るのには大変だし子どもはビデオやテレビが好きだから、など、さまざまな理由があるのかもしれない。

しかし、少子化とはいえ、実際なにかイベントをしようと、こんなに子どもがいるんだとうれしくなるほどの親子が集まります。家の中で子どもとふたりきりのお母さん方が、楽しく子どもと遊べていればいいのですが、子育てにつまずいてはいないかしら、ひとりで悩みを抱えているのではないかしらと気になりだしたのは、助産師として三十年近く母子と接してきた中でのここ十数年です。大阪の母子保健総合医療センターで未熟児や障害を持つ子どもを抱えた母親たちから、そして母乳育児相

談室での仕事の中や地域での子育て支援の活動の現場では新生児・乳幼児を持つ母親たちから、多様な悩みを聞かせていただきました。女性でしか感じ得ない、はかりしれない問題に数多く出会いました。そのような中、親子の安全基地となるような保育園、そして地域女性の駆け込み寺のような相談室、誰もが気軽に門扉をたたきつろぐことができる場所づくりをめざしたいとの思いで、平成十年に「めぐみ保育園/母と子の相談室」を開設しました。

いつでも周りに話し相手がい

昔、といっても戦後十年ほど経つてのことですが、私が生まれたころは、近所との関係に今のような希薄さはなく、隣近所だけでも常に二十人から三十人ほどの方に囲まれて育った記憶があります。今のように大人も子どもも、近くに話し相手がいなくて寂しいといった環境はなく、小学生のころでも帰宅して親が仕事で留守のときなど、誰かに話を聞いてほしいときは隣のおばさんの家へ上がりこんで話をしていました。鍵など当然掛かっていますので、「おばちゃん、おるー」とそのまま上が

り話を聞いてもらうことができました。まだ十歳になっていないころでも、近所のおばさんの愚痴を親身に(?)聞いていました。大人子どもにかかわらず、常に話を聞いてくれる人が周りに大勢いました。小学四年生のとき、近所に一歳前の乳児が住んでいて、私は毎日学校から帰るとすぐその子の家に行き、その子をあやして笑わせるのがとても楽しみでした。その子が笑顔を見せてくれると私も温かくていい気持ちになるので、笑わせる術が日々上達していきました。ある日、その子の母親から、急用ができたので一日子どもを預かってほしいと頼まれました。離乳食を食べさせ、布オムツを替え、後追いでトイレに行くのも一苦労、あやす余裕もない状態の中、その子が安全に過ごせるよう、一生懸命頑張ったことを今でも鮮明に思い出します。

子どもを信じ子どもに任せる

「大人から任せられた。小学生の私を認めてくれて、大事な子どもを私に託してくれた」——なんだかとてもうれしくて、大変でしたが本当に心地よい体験となりました。今の時

代も、もっと子どもを信じ子どもに任せることがあってもいいのではないかと思えます。大人が子どもの失敗を恐れていては、子どもは挑戦すれません。大人の「失敗していいよ、頑張つてごらん。見守つていよう」という気持ちで、子どもに安心感と勇気を与え、失敗にくじけない強さが生まれ、失敗ごとにくましく成長していくのではないのでしょうか。

孤立した子育ての大変さ

子育ての現状について考えてみると、若い方の中には、ご自分の子どもを授かるまで幼子とかかわつた経験のない方が少なくありません。それに加え、なにかのときに気軽に相談できる人が身近にいない。わずかの間でさえ子どもを見てもらえないのが隣近所にいない。二十四時間、片時も子どもから目を離さずに見ないといけない、という大変な現実がそこにはあります。

また、少子化や核家族化は、子ども側にもさまざまな影響を与えています。昔のように幼児から小学生までが徒党を組んで地域を駆け回る体験がなくなりました。子ども同士の縦社会では、その集団で多くの感動

がありました。けんかも絶えませんでした。けんかの中で相手の体や心の痛みを知り、力を加減することも学びました。表情やしぐさを見て相手の心情を読み取る力も養います。年上の子は年少の子をいたわり守る術を学び、年少の子は年上の子から遊びや生活の術を学んでいました。子ども社会の中でもルールはあり、リーダー(お山の大将)の存在もありました。それらの子ども集団は、地域全体が子どもにとっての安全基地であり、地域の大人の温かい見守りがあったからこそ存在できるものでした。今の社会で昔のような集団づくりは難しいでしょうが、類似した環境を大人が整えてあげることが必要です。

「子育てって大変!」——よく質問されますし、よく耳にする言葉です。子どもを育て上げるのですもの、大変だし、責任重大ですよ。でも、子育てに完璧つてないのです。授乳方法にマニュアルはあっても、子ども育てにマニュアルはありません。存在しない完璧さを求めているとしんどくなります。ゆとりがあるからこそ、豊かさ自由さを感じられます。心のゆとり、時間のゆとり、空間のゆとりがあって、家庭が安心の場になるのです。ゆとりを持って、子ど

もに大好きなお母さんの笑顔を見せたいものです。

今でも「三歳児神話」については是非が問われている中、これはあくまでも私自身の思いであり、さまざまな考え方がありとは思いますが、私はせめて一歳までは母親の温かい手と胸、そして母乳で乳児を育てていただきたいと願っています。まず母親が子どもに安心・信頼・安全場所をつくってほしいと思います。父親は、母親と子どもを優しく包み、守つてあげてください。父親の優しいまなざしがあれば、母親は安心して子育てができます。でも、お父さん、笑顔で耳を貸すだけでなく、心とともに体や手も使って、しっかりと子育てを共有しましょうね。

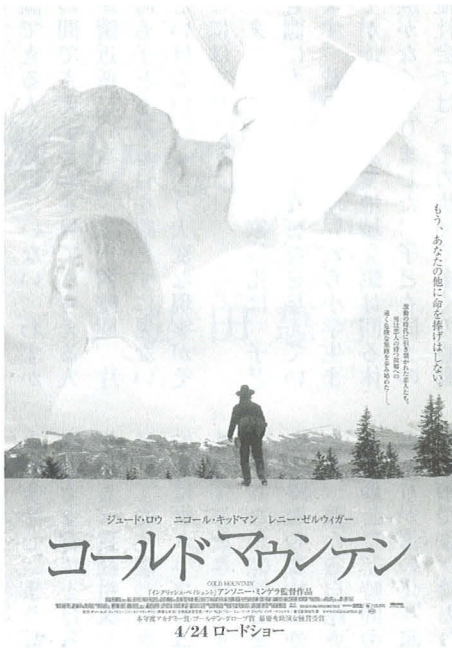
自分の存在そのものを認めてくれる人

ここ数年来、性教育の講座をさせていたっています。性教育とは「からだを知る、命について学ぶ、生きることを見つめなおす教育」です。講座で保護者の方にお願ひしていることがあります。「ときどき出産のことを思い出してください。産声を上げたときの感動を、ちっちゃな体ごと自分に委ねて抱かれていたあの

姿を。生きていくだけで幸せだと思つたあのときの気持ちを。そして、そのときの思いを子どもに話してあげてください。『あなたがいるから私は幸せ』と子どもに伝えてあげてください。せめて我が子に、自分の存在が周りに幸福感をもたらしていること、自分ではなくてはならない存在だということを、気づかせてあげてください」と。大人になつても「あなたがいてくれて本当にうれしい」と言ってもらい、自分の存在そのものを認めてくれる人が周りにいるだけで、生きる原動力になるものです。

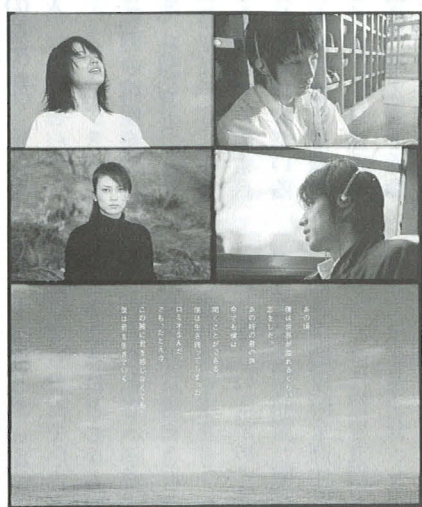
これからは妊娠・出産・育児が特別ではない「ふつう」のこととなるよう。しかも、その「ふつう」のことに喜びを感じるができるよう。そして、周りが「ふつう」のことを自然に守り育んでいけるような社会になるようにと心から望みます。力不足ながら私も「子育て一助」という形で一緒に考えさせていただければと願っています。

ひろたけいこ/めぐみ保育園・母と子の相談室 園長/社団法人日本助産師会高知県支部「子育て・女性健康支援センター高知」センター長



ブ・ザ・リング
グ 王の帰還
「イン・ザ・
カット」
「コールド・マウンテン」
「ト洛伊」
「21グラム」
「アイ・アフター・トゥモロー」
映画が「クイール」
「死に

力作の印象が新しいだけに、文化祭参加作品の四作品に少々見劣りの感が湧いてくる。
そのようななかで、外国映画では「コールド・マウンテン」が早々に見解の一致をみて優秀賞に選出され、奨励賞には「21グラム」と「アイ・アフター・トゥモロー」とで協議を加えるなかで、後者が選出された。日本映画では、まずエンタリー作品のラインナップへの不満が漏れるなか、「クイール」「世界の中心で、愛をさけぶ」「海猿」での綱引きとなり、兎にも角にも多大なる観客の支持を受けて破格のロングランを達成したことを考慮して「世界の中心で、愛をさけぶ」が優秀賞、「クイール」が、高知の興行館での初のバリア・フリー



世界の中心で、愛をさけぶ

上映を試みたことを加味して奨励賞に選出された。受賞作品の概要は、以下のとおりである。

★優秀賞外国映画『コールド・マウンテン』（高知東宝上映）

アメリカ南北戦争時の美男美女（ジュード・ロウ&ニコール・キッドマン）による運命の恋を貫いた純愛ロマンの形式を採りながら、戦争というものが引き起こす過酷な状況とそれが露呈させる人間の諸相というものを、エイダとの再会を求めてさすらうインマンの巡礼のごとき旅と待ち続けるエイダの耐乏生活のなかに描き込んだ秀作。過酷な状況を生き延びるうえで必要なものが、幽かではあっても「希望の光」であること

第56回高知市文化祭への

参加映画を選定して

山本嘉博

半世紀を越える高知市文化祭の歴史のなかで、映像専門部を置いて参加映画の選考を行うようになったのがいつからなのかはともかく、文化行政の枠組みのなかに、興行館で上映される商業映画に関する部門を長らく設けているのは、全国的にも珍しいのではないかと。国レベルでは、二〇〇一年末に制定された「文化芸術振興基本法」において、ようやく映画の振興も「メディア芸術」として文化芸術に位置づけられたわけだが、先駆けること数十年、高知市文化祭が劇場公開映画に門戸を開き、参加映画の優秀作品の選考を重ねてきたことの意義は大きい。
今春の文化祭にエントリーのあった作品は、外国映画が「ロード・オ

を感慨深く伝え、戦う男の論理と武器の不毛を訴えるルビー（レニー・ゼルウィガー）の言葉が印象に残る。選考会では、台詞や映像にW・ワイラーの『嵐が丘』へのオマージュもみられて面白いとの指摘も得ていた。

★優秀賞日本映画『世界の中心で、愛をさけぶ』（高知東宝上映）

同名の純愛ベストセラー小説の映画化作品で、原作に描かれた十七歳の恋をちょうど折り返す年齢とも言うべき二十四歳からの回想物語として描き、再び高松空港に足留めされながらもアキ（長澤まさみ）の想い出の「後片づけ」をすることを確かめ合う朔太郎（大沢たかお）と律子

（柴咲コウ）の姿を加えることで、原作に見合った意匠のアンサームービーとした作品。
選考会では、回想とすることで、とことん美化された物語であることの不自然さを補った映画の作り手のアイデアへの評価とアキとサクを演じた長澤まさみと森山未來の存在感への賞賛の声が寄せられた。

☆奨励賞外国映画『アイ・アフター・トゥモロー』（高知東宝上映）

地球温暖化という今日的課題を題材に、最新のCG技術を駆使して氷河期の到来を映像化した、古典的スタイルのスペクタクル映画



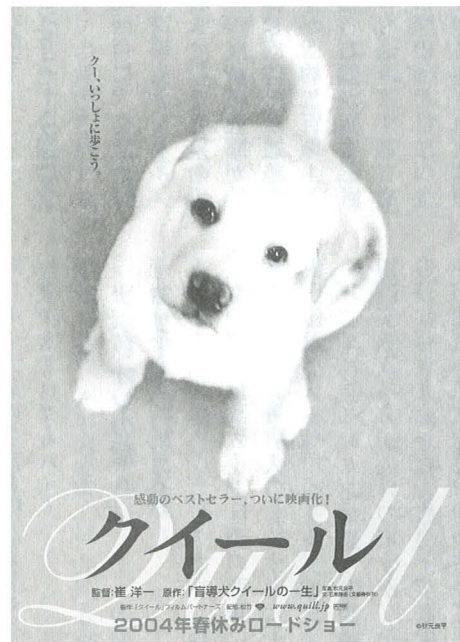
地球温暖化という今日的課題を題材に、最新のCG技術を駆使して氷河期の到来を映像化した、古典的スタイルのスペクタクル映画

としてのドラマツルギーを再評価させる視線も促し得た娯楽快作。ハリウッド作品ながら、アメリカが批准しないことで発効しない京都議定書のこと言及したり、チェイニー副大統領そっくりのキャストイングをして揶揄しているところが目を惹いた。
選考会では、映画という表現の持つ「同時代性」という特長と意味を重視する観点から、敢えて「21グラム」を排して

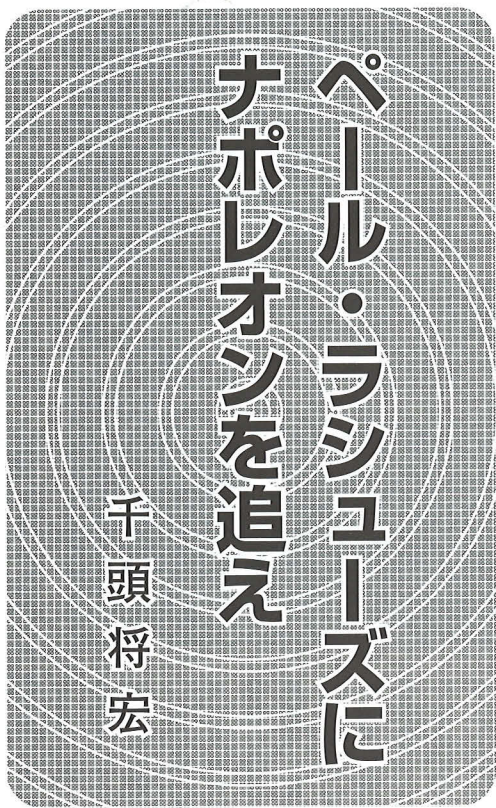
の授賞となった。

☆奨励賞日本映画『クイール』（松竹ピカデリー上映）

実在した盲導犬を偲ぶ形で、その生立ちから死去



までの一生を丹念に描いた作品。類型的な啓発映画を避けようとした作り手の思いは充分達成されていたように思われるが、犬好きでもない者には少々違和感を与えるような作りでもあった。
選考会では、聴覚障害者向け日本語字幕付き上映を三日間、視覚障害者向け副音声ガイダンス付きの特別版上映を二日間おこなったことが劇場の試みとして大いに評価されたが、実際には周知が行き届かず、あまり利用されずに終わっているのが残念なところで、今後の意欲喚起と試みへの注視の促しもあつての奨励賞選出となった。
（やまもとよしひろ／高知オフシアターベストテン選考会事務局長）



ペール・ラシューズ墓地 開設二百周年

昨年の五月下旬のこと。メトロから、ガンベッタ広場に上つてきました。広場の東一画を占める第二十区の区役所の横断幕に、ペール・ラシューズ墓地開設二百周年の文字が躍っていました。二百周年。私は、一九七六年十一月に最初の展墓をして以来、少なくとも四十回は入場しているはずです。今回は、ナポレオンに精通しているI氏よりの予備知識をもとに、ナポレオンの縁者三カ所の墓を巡るのが、主な目的でした。過去、ナポレオンに関連する墓を意

識して展墓することがなかったばかりか、いまだアンヴァリドにも行ってなく、バルザックの翻訳小説を再読していながら、ナポレオン伝記も一読していない、この体たらくさ自嘲気味にならざるを得ません。

これまでに、皇帝関連の墓を見ましたのは、二十八区画フオア將軍、マッセナ元帥、リフェーヴル元帥、二十九区画ネイ元帥。三十七区画の軍陣外科医ラレー。三十九区画ミューラ元帥と妻カロリーヌ(ナポレオンの妹)。十二区画俳優タルマ、八区画女優マルス嬢。いずれも墓型の偉容さに驚き、記憶に新しいというのが偽らざる事実です。

ナポレオンの好敵手 ウイリアム・シドニー・スミス

四十四区画の北西角に、交霊術師アラン・カルデックの大きなドルメン様式の墓があります。その墓の正面から南方向に、一直線の通路が伸びています。私は今回、その通路を初めて歩くのですが、約二百メートル進んだ地点から、右側が四十三区画に変わり、なおも進みますと、通路側に大きな石棺型の墓が目につきました。石炭の煤にさらされ真っ黒く汚れています。墓碑銘には、ウイリアム・シドニー・スミスと夫人の名が刻まれています。

I氏より助言されていたのは、修復された真新しい墓です。碑銘を何度見ても、当の墓であることは間違いない、首をひねりながら南の方へ約二十メートル歩きましたら、先ほどの墓とそっくりな真新しい薄ページュ色、大理石造りの墓がありました。奇妙に思いましたが、碑文から、これは墓ではなく、スミスの顕彰記念碑なのだと判断しました。

シドニー・スミスは、一七九九年ナポレオンのエジプトと東方諸国征服の野望を断ち切った、英国海軍の勇将であり、晩年、好敵手の眠るパリーに夫人とともに永住し、一八四〇

年に七十六歳の生涯を閉じました。皇帝恵まれてあれ

ナポレオンの愛人 マリー・ワレフスカ

次の展墓は、六十七区画の西角にあるワレフスカ夫人の墓です。六十七区画は、メトロ・ペール・ラシューズ、メニルモンタン大通りの北通用門から入る方が近いのですが、その墓に行きましたら、修復工事なのか、四方を工事用幕で覆っていて展墓はできません。ただ、過去に数回展墓したことがあります。ひととき目立つ凝った造りの霊廟型。墓の主を知らずとも、思わず正面のガラス戸から内陣を覗いた覚えがあります。古い家系図の文字が壁面いっぱいに並んで、貴族の誇りが感じられました。

一八〇七年一月。ワルシャワに駐留していたナポレオンは、ワルシャワ大公国の名家ワレフスカ伯爵の夫人マリー・ワレフスカに出会い、熱烈な求愛作戦に出ます。五十二歳も年上の老夫に満ち足りなかったのか、二十一歳の夫人は、ナポレオンに恋愛感情を抱いて受け入れます。一八一〇年には、愛の結晶アレクサンドルを出産。その年、一方のナポ

レオンは、マリー・ルイーザと再婚しています。ワレフスカ夫人は一八一八年にパリで亡くなりました。三十一歳でした。霊廟はオルナノ伯爵家のもので、私はワレフスカ夫人が間借りをしているものと決めつけていました。オルナノ伯爵は歴然とした再婚相手であることを知りませんでした。歴史は、ポーランドを重視し、ドルナノ家を脇役に追いやっています。ナポレオンの威光と申すべきでしょうか。

ナポレオンのクレオパトラ ポーリーヌ・フルース

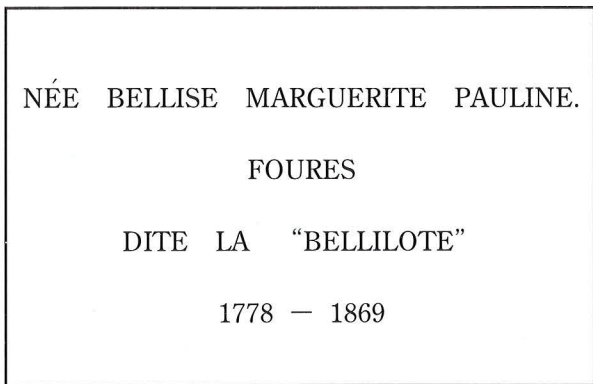
その次の展墓は、マルグリット・ポーリーヌ・フルース。一七九八年八月、ナポレオンがエジプト遠征した際、部下のフリース中尉の妻ポーリーヌを見初め、愛人になりました。ジョゼフィーヌ王妃の奔放な浮気の意趣返しとの説が有力です。翌年の八月下旬にエジプトから撤退するまで、ポーリーヌは戦場の王妃でした。しかし、パリに帰還して以後、ナポレオンは元・部下の妻には情事の関心をまったく示しませんでした。ナポレオンのクレオパトラとも称され

たポーリーヌは、ペール・ラシューズ墓地を奥津城にしています。

彼女の墓の場所が不明で、墓地管理事務所まで調べていただくことになりました。私は、たびたび管理事務所に行つて、マイナーの詩人・作家の墓を教えてもらったことがあるのです。

六十七区画から管理事務所までは遠くはありません。行つてみますと、二百周年を迎えたというのに、全面改築中です。仮事務所は外部でしたので、私は、ペール・ラシューズ墓地著名人墓地図を発行しているメトロポリタン出版を訪ねることにしました。歩いて約十分の、ルネ・ビレーエヌ通り四番地にあります。幸いに、一人の中年男性が在室していました。数冊の本のページをめくっていましたが、二十六区画に目的の墓があることが分かりました。この区画は、面積は狭いのですが、墓を探すと長時間を要します。

私は、二十区画の角から二十七区画との間の石畳の通路を踏んで、一列目と二列目に照準を当てて歩きました。中間を過ぎたあたりで、二列目に墓碑銘が青色に塗られた墓が目に見え、飛び込んできました。赤色はよく見かけますが、青色なのは初めてなので、近寄つて墓碑銘をみますと、



次のように記されていました。

墓は初期の典型的な型で、平墓へ後部にアーチ型の盾がつき、その表面に碑銘を彫っています。彫りが浅く、風化して読むこともままなりません。青色に塗ったのは、ポーリーヌの生涯に共鳴した若い男の善意の発露でしょう。碑銘三段目のブリイロットは愛称で、多くの人々に親しまれた事実を物語っています。

また、ナポレオンの求愛を敢然と拒否した人妻もいました。伝説の社交界の華レカミエ夫人(一七七七一

一八四九)です。夫人の墓は、北のモンマルトル墓地三十区画、作家スタンダールの手前五十メートルほどの二列目に、夫、夫の両親、神秘家パランシユとの同居です。

奥方様 東方の虹と ミスチゲリ (愛猫の名) と撫でながら ボナバルトの鬼火 消えがての虹

参考資料、左記の四点。井上公喜氏より借りました。厚くお礼申し上げます。

倉田保雄『ナポレオン・ミステリー』(文春新書/二〇〇一年八月発行)

藤本ひとみ『ナポレオンの恋人たち』(角川書店/二〇〇四年九月発行)

川島ルミ子『ナポレオンが愛した三人の女』(成星出版/一九九五年一月発行)

ドーン・B・ソヴァー著・香川由利子訳『愛人百科』(文春文庫/一九九六年四月発行)

ほかに、二点。
村松嘉津『続巴里文学散歩』(白水社/一九五九年発行)

岩田誠『ペール・ラシューズの医学者たち』(中山書店/一九九五年発行)

(ちかみまさひろ)

子どもの目が輝く瞬間

河村 章代

私が大学の学芸員実習で関西地方の某県立美術館での来館者調査（アンケート）を行ったときのことであり、質問のひとつに「美術館へのご希望があればどうぞ」というものがあった。他のお客さまがどう答えら

のあり方もあのころとは変化してきているように思うが、幸いにもおぼさんや子どもを排除した美術館は未だ聞いたことがない。むしろ、おぼさんと子どもは今や美術館のお得意さまである。特に子どもは「これからのファン」として、どこの美術館・博物館もその普及活動に力をいれているのではないだろうか。

かく言う県立美術館も、本年度より教育普及事業を積極的に展開していく方向で、さまざまな事業を行いはじめた。とりわけ、目玉的なものが学校向け普及事業の「ハロー！ミュージアム」と「出前びじゅつ講座」である。前者は地理的に美術館への来館が難しい地域の学校を会場にした移動美術展、後者はいわゆる「出前授業」である。こうした館外での活動だけでなく、遠足や社会見学での来館に対する対応も積極的に進めはじめた（と、偉そうに書いているが、こんなことは別に目新しいことではない。全国をみれば、すでに行われていることばかりである）。

さて、こうした活動を「いろんなところに行けていいねー」と思う方もおられるかもしれないが、実際は、「どんな話したらええんかなあ」とか「受けへんかったら嫌やなあ」とか「話が続かんかったらどうしないしょ？」

と心配ばかりである。しかし、案ずるよりも産むが安しとはよく言ったもので、四苦八苦し、「しまった！」と思いつつ、子どもたちが驚いたり、笑ったりして、最後には「バイバイ！」と手を振ってくれると、「あー、よかった。また、頑張ろう」と思えるのだ、本当に。

か!?）。学校での図工や美術の時間は、制作が主であり、鑑賞は二の次であるから、私のように制作が苦手な子どもは美術から遠ざかってしまふ。描くのが下手でも、見るという楽しみ方があることを伝えたい、という思いから自分の恥をさらすわけ



また、機会があれば、私は「私は学校で美術の成績は悪かった、美術の授業は嫌いだった」と話をする。事実、私の美術の成績はあまり良くなかった。絵は好きだったが、描くことが下手だったから。世の中に美学・美術史という学問があることを知らなければ、私は美術に対して苦手意識を持ったまま、高知に来ることもなく、関西でぼーっと暮らしていたことだろう（その方がよかった

であるが、必ず何人かの子どもは目を輝かしてくれる。こういう、子どもの目が輝く瞬間に出会う度に、「この仕事を選んでよかったなあ」と思うのである（私は、感動しやすく、涙もろい人間なのだ！）。

（館主任学芸員）

高知市文化プラザ かるぽーと 10月～11月の事業の報告

◆高知のアーティスト2004「もっくんバード」

地元高知で活躍しているアーティストを紹介するシリーズプログラム「高知のアーティスト2004」。その第二弾として、十月二十二日、「もっくんバード」コンサートを小ホールで開催しました。

「もっくんバード」は、一九九六年に結成された、高知県内では初めてのマリンバ・アンサンブルグループ。マリンバ六台にピアノとドラムを加えた構成で、剣の舞、熊蜂の飛行、アメリカン・パトロール、ラテンメドレーなどを披露。マリンバの魅力を最大限に引き出す軽快な演奏で会場を沸かせました。

◆まんがで遊ぼう！ まんがの日

平成十四年、日本漫画家協会などが十一月三日の文化の日を、「まんがの日」と制定しました。この「ま

んがの日」に子どもたちにもっとまんがに親しんでもらおうと、まんが体験イベント「まんがで遊ぼう！まんがの日」を開催しました。二回目となる今回は、昨年を上回る約八百人の親子連れが来館。昨年好評だった「まんがキーホルダー」「まんがカレンダー」「まんが手紙」「似顔絵」の各コーナーのほかに、今年

は「落書き」と「オリジナル缶バッジ」のコーナーも新設。子どもたちは、色鉛筆やカラーペンを使って楽しそうに作品を作り上げていました。

◆平成16年度文化庁「本物の舞台芸術体験事業」バレエ公演

昨年度のモダンダンス公演に引き続き、かるぽーとで二回目の「本物の舞台芸術体験事業」として、十一月十日、大ホールでバレエ公演を開催しました。

この事業は文化庁・高知市文化振興事業団の主催で、子どもたちに本物の舞台芸術に身近に触れる機会を

提供することによって、芸術を愛する心を育て、豊かな情操を養うことを目的に行うものです。

演目は松山バレエ団「くるみ割り人形」（全二幕八場）。森下洋子・清水哲太郎をはじめ、松山バレエ団総勢七十四名が出演し、河合尚一指揮での九州交響楽団の生演奏による豪華な舞台になりました。

団体で参加した小学校四校と高校一校を含め、小学四年生から高校生を中心に約九百名を招待。幕前には出演者によるワークショップも行われ、衣装について説明を受けたり、バレエの動きがどんな感情を表現しているかを学んだりしました。幕が開くと、子どもたちはバレエの世界にすっかり引き込まれ、舞台に集中。一流の舞台を鑑賞する貴重な経験となりました。

◆アイリッシュ・ダンス・カンパニー「トリニティ」

近年、日本でも大人気のアイリッシュ・ダンス。かつては競技会が主な発表の場であったアイリッシュ・ダンスを舞台芸術として発展させた最初のカンパニーである「トリニティ」の公演を、十一月十六日、大ホールで開催しました。

二十名のダンサーたちは、色とりどりの民族衣装を身に付けてステージ上を所狭しと飛び回ったり、キューリーなアメリカンガールの装いでボディ・パークッションを披露したり。伝統のアイリッシュ・ステップからモダンなタップ・テクニクまで幅広いステージを見せてくれました。観客は、打ち鳴らすタップの迫力と、華麗な足技、そしてアイリッシュ音楽の生演奏を堪能しました。

◆アイリッシュ・アコーディオン・ジャッキー・デイリー

「トリニティ」公演の翌週、十一月二十三・二十四日と、アイリッシュ・アコーディオンの世界的演奏家ジャッキー・デイリーによるコンサートを小ホールで開催しました。公演には、ジャッキー・デイリーとも親交の深いアイルランド音楽の研究者であり、演奏家でもある守安功・雅子夫妻も共演し、アットホームな雰囲気の中、素晴らしい演奏を聴かせてくれました。

公演は二日間にわたって開催。来場した熱心なアイルランド音楽ファンは、「神様」とも称されるジャッキー・デイリーの演奏に、さかんに拍手を送っていました。



散歩の途中で

かるぽーと近くの公園。毎日見ているのに、ブランコがはさみやコンパスの形になっていることに、しばらく気がつかなかった。子どもたちが元気に遊んでいたので写真を撮らせてもらったが、それだけでも気を遣うこのご時世。今年は平安で幸せな年になりますように(本当はブランコの支柱に登ってはいけません)。

風俗

ソメイヨシノを植えないで

道端には花屋さんで売っているような花が植えられていることである。自然に親しみながら歩く四国自然歩道(四国のみち)の道端にもさまざまな帰化植物が植えられている。「四国自然破壊歩道」とさえ呼びたくなるほど、その環境整備について管理者等関係者は、何も考えていないのではないかと思える。

この夏ごろから、山に登っている、というより森を歩いているといった方が正しい。出かけた先々で、眉をしかめる場面や風景が多々ある。人はどうしてこども自分勝手に自然に手を加えて省みないのかと思う。
なんともやるせないのは、駐車場にはソメイヨシノ(吉野山の山桜のことではない)、

どう考えても四国の原生の森には、ソメイヨシノは無いし、西洋のスミレなども咲いてはいない。その場の気候風土に適した美しい木々があり、草花が咲いているのだ。草木を植えるのなら、その場所の植生にあったものを植えるべきだと思っただけだ。
残念なことは、ソメイヨシノや花を植えてくれている一部のボランティアの人たちが、自分たちはいいことをしているのだと信じて、本来の自然の植生を乱していることに気がつかないことである。
「良いことをしているんだ」というボランティアの信念が、時として自分のしていることの善し悪しを深く考えない、あるいは人の注意も耳に届かないという弱点を招いている。このことは、草木を植える「ボランティア」だけに止まらない。
(雲の峰改め冬華)

第15回 高知出版学術賞 推薦募集

「高知出版学術賞」は、当該年における最も優れた学術出版を顕彰することによって、学術研究の振興を図ることを目的とした賞です。皆さまからの該当図書のご推薦をお待ちしています。

【対象】

次の事項をみたすもので、高知出版学術賞審査委員会に推薦されたもの。
①高知県内に在住する者の学術的著述、または他県在住者で高知県に関する事項をテーマにした学術的著述。
②2004年中(奥付の日付による)に発行された単行本。

【推薦】

自薦・他薦を問いません。所定の推薦書に必要事項を記入し、該当図書2部を沿えて審査委員会まで提出してください(図書は返却しません)。なお、推薦書は請求いただければお送りします。

【締切】

平成17年1月31日(月)

【表彰】

3点以内とし、それぞれの著者または編者に賞状と賞金10万円を贈ります。

【推薦・お問い合わせ】

助高知市文化振興事業団内
高知出版学術賞審査委員会
電話088-883-5071

今号の表紙

「誠ちゃんの話」 筒井孝枝

私は、人間ウォッチングが大好き。この日も、誠ちゃんは愛娘すみれちゃんの話をしていて。はじめてお風呂に入れたらしい。しかし、きかされている友人は、あまり関心がないみたい。「ちゃんと聞けよ」。すこし、誠ちゃんはきかれていた。
やっぱり、人間ウォッチングはやめられない。(つついたかえ)



高知を撮る
第20回写真コンテスト入賞作品

寒中水泳 岡田 文夫 (昭和33年 雑喉場橋)

鏡川では毎年1月はじめに寒中水泳の行事がありました。雑喉場橋より飛び込み。

昨秋出版された、山本武信「地球メディア社会」(リベルタ出版)を読んだ。
著者は、福岡県出身で、祖父江氏の説く、福岡県民性を絵に描いたよ

なかでも、九州最北端の福岡県は、古代以来、大陸からの文物の移入口として発達し、西日本の政治、経済の中心として栄え、時流に敏感で、進取の気性に富んだ県民性を育ててきた(文化人類学者・祖父江孝男)。

「四国人」、〈四国男児〉という言葉はないが、〈九州人〉、〈九州男児〉という言葉は、よく使われる。つまり、九州は、県を越えた連帯意識が非常に強いことになる。
日本の西南端にあるため、古代から現代に至るまで、外国文明の玄関口として、日本のなかでもっとも早く、もっとも新しいものを、つねに取り入れてきた。

30年の大計



風俗歳時記

今年元日は、私のささやかな「一年の計」と併せて、この九州男児の、氣宇壮大な「三十年の大計」の実現を祈って、屠蘇(とそ)を祝った。(朴)

五十歳になった昨年の上掲書で、ちょうど十冊目。

同書は、グローバルな視点から、ジャーナリズムをめぐる諸問題を論じ、激変するメディア社会で、いかに生きべきかという指針を与えている。
〈あとがき〉によると、三十九歳のとき、「生涯に三十冊の本を書こう」と決意したという。一年に一冊のペースで、七十歳までの三十年間に、三十冊という計算で、

うな(九州男児)である。
共同通信社本特派員、フランクフルト支局長、経済部次長を歴任、この間、世界四十カ国以上で取材、二〇〇三年から大同工業大学情報学部教授。

第21回写真コンテスト 高知を撮る

作品集
募

このコンテストは、過去から現在にいたるまでの高知県内の出来事や風景、人々の暮らしなどを写真で記録し、高知の様々な表情を伝えるとともに、未来の高知のあるべき姿を考えていこうというものです。

□テーマ

「記録写真部門」

記録性を持った高知県に関する写真
(撮影時期を問いません)

「I LOVE 高知部門」

撮影者の好きな高知の風景・風俗等を表現した写真
(1年以内に撮影された作品に限ります)

□賞

「記録写真部門」

特選 2点(賞状と賞金3万円、副賞)
準特選 10点(賞状と賞金1万円、副賞)

「I LOVE 高知部門」

特選 2点(賞状と賞金3万円、副賞)
準特選 10点(賞状と賞金1万円、副賞)

入選は両部門合わせて70点以内
(かるぽーとにて、表彰式および入選作品展を行います)

□応募要項

- 1) 応募はどなたでも、一人何点でも応募できます。
- 2) 出品料は無料。(作品返却の際、郵送希望の場合は実費をいただきます。)
- 3) サイズはカラー・モノクロともに254mm×365mm(ワイド四つ切サイズ)以上とします。「記録写真部門」は発泡スチロールパネル貼り(発泡スチロールパネル以外は不可)とします。「I LOVE 高知部門」はパネル貼り不要ですが、展示する際に四隅をピンで留めますので、それに支障がある場合は発泡スチロールパネル貼りをしてください。
- 4) 組み写真は3枚までとします。組み写真の場合は、必ず順番と組み写真であることを明記してください。
- 5) 規定の応募票に必要事項を記入し、作品の裏面に貼付して下さい。
- 6) 未発表の作品に限ります。ただし、個人的な展覧会などでの発表は除きます。
- 7) 特選及び準特選の著作権は主催者に帰属し(著作権法27、28条を含む)原板を提出していただきます。

□応募先

高知県カメラ商組合加盟店または、フジカラープリント取扱店
(財)高知市文化振興事業団 企画事業課
〒780-8529 高知市九反田2-1 電話 088-883-5071

□主催 (財)高知市文化振興事業団

□協賛 富士フイルムイメージング株式会社

□後援 株式会社ラボネットワーク・高知県カメラ商組合

応募締切 1月30日(日)

結果は3月上旬、出品者に通知
入選作品展は3月15日～27日かるぽーとにて開催

アンデルセン生誕200年記念公演 オペラ人形劇



火打ち箱

THE TINDER-BOX



アンダーグラウンド音楽劇団
(デンマーク)



アンデルセン生誕200年を迎え、デンマークからアンデルセンの劇がやってきます。デンマークではだれもが知っているアンデルセン童話「火打ち箱」、アンダーグラウンド音楽劇団がオペラと人形劇を組み合わせた手法で演じます。ひとりの男が魔法使いから手に入れた火打ち箱は、どんな望みもかなえてくれる魔法の箱。あるときお姫様にキスをしたことで王様につかまった男は、絞首台に立たされますが、火打ち箱から動物たちが飛び出して…。

日時 3月5日(土)①14:00開演
3月6日(日)①11:00 ②14:00開演

会場 高知市文化プラザ小ホール

入場料 全席自由 1,500円(3歳以上有料)

高知市文化プラザ **かるぽーと** 〒780-8529 高知市九反田2-1
お問い合わせ 088-883-5071



■関連企画のご案内 HCA2005 in KOCHI (アンデルセン生誕200年記念行事)
アンデルセンの本と国際アンデルセン賞・IBBYオナーリスト図書館
会場:高知こどもの図書館 日程:2月16日～4月10日 お問い合わせ:高知こどもの図書館 088-820-8250